

まずは月次決算の 役割と目的を理解しておこう！



月次決算は 社内の共通言語だ

企業を取り巻く環境は、かつてないスピードで変化しています。原材料価格の高騰、人件費の上昇、為替変動、採用難、そして市場ニーズの急激な変化など、経営者が判断しなければならぬことは増え続けています。こうした時代において、経営判断のスピードと精度は、会社の収益力に大きく関わります。その判断材料となるのが、月次決算です。

しかし現実には、「月次決算はつくっているけれど、あまり見られていない」

「完成が遅く、経営判断に間に合っていない」「試算表を渡して終わりにになっている」という会社も少なくありません。せっかく手間をかけてつくっているのに、経営に活かされていないのであれば、とてももったいないことです。

月次決算は、経理担当者だけのためのものではありません。経営者、営業、現場、管理部門が同じ数字を見ながら、次の一手を考えるための共通言語です。だからこそ、単に「早く締める」だけでなく、「見て分かる」「話し合える」「行動に移せる」形にしていくことが大切です。

先に結論を言えば、儲かる会社の月次決算は、「過去の記録」ではなく「意思決定ツール」として使われています。

できれば翌月5営業日以内に数字を出し、前月・前年・予算と比較しながら、売上、粗利、利益などの重要な指標に絞って確認します。そして、違和感のある数字を見つけたら原因を考え、毎月1つでも改善アクションを決めていきます。

「早く出す、比較する、1つ改善する」。このサイクルを回すことで、月次決算は単なる経理資料ではなく、儲けにつながる武器になります。

以下では、月次決算の基本から、遅れる原因、スピードアップの方法、経営への活かし方まで、実務に沿って見ていきます。

また、月次決算を経営に活かすうえで忘れてはいけないのが、「数字は会